

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-339031
 (43)Date of publication of application : 06.12.1994

(51)Int.Cl.

H04N 1/44

(21)Application number : 05-149815
 (22)Date of filing : 31.05.1993

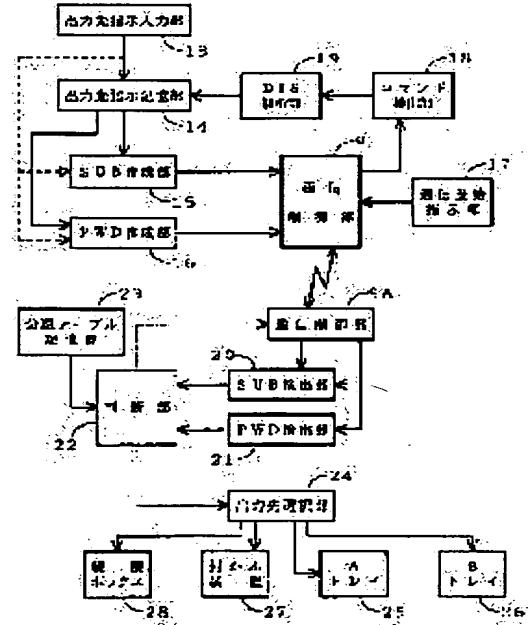
(71)Applicant : FUJI XEROX CO LTD
 (72)Inventor : TEZUKA YOSHIAKI
 SAKAYAMA TAKASHI
 MAEI YOSHIHIRO

(54) FACSIMILE EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To attain output destination designation transmission to an equipment which is not equipped with a non-standard function.

CONSTITUTION: A SUB preparing part 15 prepares a SUB command including an output destination classification number, and a PWD preparing part 16 prepares a PWD command including a personal code number. Each prepared command is transmitted to a reception side. An output destination is specified from a classification table storage part 23 according to the output destination classification number and the personal code number detected by a SUB detecting part 20 and a PWD detecting part 21 at the reception side. Then, received picture information is outputted from an output destination selecting part 24 to the specified output destination. The SUB command and the PWD command are the standard commands, and the output destination can be designated by using the standard commands. Thus, the output destination designation transmission can be attained with the other company-made equipment.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 04.12.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3266987

[Date of registration] 11.01.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right] 11.01.2005

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特許公報 (B2)

(11)特許番号

特許第3266987号
(P3266987)

(45)発行日 平成14年3月18日 (2002.3.18)

(24)登録日 平成14年1月11日 (2002.1.11)

(51)Int.Cl.⁷
H 0 4 N 1/44

識別記号

F I
H 0 4 N 1/44

請求項の数3(全10頁)

(21)出願番号 特願平5-149815
(22)出願日 平成5年5月31日 (1993.5.31)
(65)公開番号 特開平6-339031
(43)公開日 平成6年12月6日 (1994.12.6)
審査請求日 平成10年12月4日 (1998.12.4)

(73)特許権者 000005496
富士ゼロックス株式会社
東京都港区赤坂二丁目17番22号
(72)発明者 手塚 芳明
埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士
ゼロックス株式会社内
(72)発明者 坂山 隆志
埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士
ゼロックス株式会社内
(72)発明者 前井 佳博
埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士
ゼロックス株式会社内
(74)代理人 100079289
弁理士 平木 道人 (外1名)
審査官 酒井 伸芳

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ファクシミリ装置

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】受信した画情報を、指定された出力先に出力するファクシミリ装置において、出力先毎に出力先分類番号を対応して記憶させた分類テーブルと、受信したサブアドレスコマンドの情報フィールドから出力先分類番号を抽出する手段と、受信したパスワードコマンドの情報フィールドから暗証番号を抽出する手段と、抽出された出力先分類番号に対応する分類番号に対応する出力先を前記分類テーブルから検出する判別手段と、検出された出力先に設定されている暗証番号および前記パスワードコマンドの情報フィールドから抽出された暗証番号を比較する手段と、検出された出力先に、受信画情報を出力させる出力先選

10

2

択手段とを具備し、

前記2つの暗証番号が互いに一致した場合に、受信画情報を前記出力先に出力するように構成したことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】出力先に暗証番号が設定されているか否かを判断する手段と、サブアドレスコマンドだけ受信をしてパスワードコマンドを受信しない場合であって、出力先に暗証番号が設定されていると判断された場合には、通信エラー処理を行う制御手段とを具備したことを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項3】出力先に暗証番号が設定されているか否かを判断する手段を具備し、出力先に暗証番号が設定されていないと判断された場合には、受信したパスワードコマンドの判断を行わないこ

とを特徴とする請求項 1 記載のファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はファクシミリ装置に関するものであり、特に、送信文書を受信側の予定の出力先に出力させることができる出力先指定機能を有するファクシミリ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】送信した文書を受信側の予定の出力先に出力させることができる出力先指定送信機能を有するファクシミリ装置が知られている。例えば、機密を保持するために受信文書に封をする封緘（封かん）機能を有するファクシミリ装置として、送信文書の予定位に書き込まれた分類情報によって受信側で受信文書の排出先を変えていくようにした装置が知られている（特開昭 64-60148 号公報）。また、送信側から送信されてくる拡張機能指示コードに基づいて、受信画像が記録された記録紙に複数箇所に分配して格納するようにした装置も知られている（特開平 1-176160 号公報）。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記、従来の出力先指定送信では、送信文書に分類情報を書き込まなければならぬ不便さがあった。また、拡張機能指示コードの通知のために非標準コマンドが使用されているので、この非標準コマンドを解読できる装置、つまり同一機種ないしは同一メーカーで製造された装置同士（以下、自社機という）でしか出力先の指示を行うことができないという問題点があった。

【0004】本発明の目的は、上記の問題点を解消し、互いが自社機であるか否かを問わずに出力先指定送信を可能とするファクシミリ装置を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決し、目的を達成するための本発明は、出力先毎に分類番号を対応して記憶させた分類テーブルと、受信したサブアドレスコマンドから抽出された出力先分類番号によって出力先分類テーブルを検索して出力先を特定する判別手段と、特定された出力先に受信画情報を出力させる手段とを具備した点に特徴がある。

【0006】

【0007】また、本発明は、特定された出力手段に設定されている暗証番号および受信したパスワードコマンドから抽出された暗証番号を比較する手段を具備し、これらの暗証番号が一致した場合に前記特定された出力先に受信画情報を出力させるように構成した点にも特徴がある。

【0008】

【作用】上記の特徴を有する本発明によれば、送信に際してサブアドレスコマンドおよびパスワードコマンドで出力先指示情報としての出力先分類番号および暗証番号

を送信することができる。また、受信に際しては受信したサブアドレスコマンドおよびパスワードコマンドから出力先分類番号および暗証番号を抽出する。そして、この出力先分類番号に対応する出力先を分類テーブルをもとに検出し、この出力先に受信文書を出力する。さらに、この出力先に暗証番号が設定されている場合には、その暗証番号とコマンドから抽出した暗証番号が一致した場合に画情報を受信してその出力先に出力する。

【0009】

10 【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。図 2 は本発明にかかるファクシミリ装置のハード構成を示すブロック図である。同図において、CPU 1 は、システム制御部 8 に格納されたプログラムに従ってファクシミリ装置全体を制御し、ファクシミリ伝送制御手順を実行する。RAM 2 は制御プログラムの実行に使用するワークエリアである。操作表示装置 3 は、テンキーを含むキーボードからなる操作部と液晶パネル（CRT 画面でもよい）の表示部とを有し、該ファクシミリ装置の動作を指示したり、その指示や動作状態を表示する。読み取り装置 4 は、送信のための原稿や複写原稿を読み取り、これを電気信号すなわち画情報を変換する。該読み取り装置 4 で読み取られた画情報を受信した画情報は画像蓄積装置 7 に蓄積される。

20 【0010】通信制御部 9 は G 3 や G 4 等の通信モードで通信を制御する機能を有し、モ뎀 10 は低速モード（伝送手順信号用 V 21 インタフェース）と高速モード（画情報送受信用 V 27ter、V 29、V 33、V 17 インタフェース）との機能を備えている。また、網制御装置 11 は、網すなわちアナログ回線やデジタル回線などへファクシミリ装置を接続するためのもので、自動発着信機能を備えている。前記画像蓄積装置 7 に蓄積された送信用画情報は前記通信制御部 9 やモ뎀 10、ならびに網制御装置 11 を介して回線に送出される。一方、画像蓄積装置 7 に蓄積された受信画情報は印字装置 5 に送出されて印字される。画像処理装置 6 は符号化部および復号化部を備え、それぞれ画情報の符号化および復号化を行う。システムバス 12 は、相互にデータを送受するためのバスであり、このシステムバス 12 を介して上記各部 1 ～ 9 間のデータの送受が行われる。

40 【0011】次に、受信文書の出力先の一例を説明する。図 3 は受信側であらかじめ出力先毎に分類番号と暗証番号とを対応付けて設定した分類テーブルを示す図である。このテーブルは受信側のファクシミリ装置の記憶手段（RAM 2）に格納されるとともに、送信側つまり出力先指定側のオペレータがこの分類テーブルを把握できるようにしておく。同図において、例えばトレイ A およびトレイ B には互いにサイズの異なる記録用紙が格納されており、出力先指定側のオペレータはトレイ A に格納された用紙で送信文書のプリントがされるようにしたい場合は、分類番号「01」を指示して通信を開始す

る。なお、封緘装置に出力したり親展ボックスに受信させたりする場合には、機密保持のために設定されている暗証番号を、分類番号とともに指示して通信を開始する。

【0012】上記構成によるファクシミリ装置の動作の例を説明する。図4はこのファクシミリ装置で使用するプロトコルコマンドであり、図4(a)にはサブアドレスコマンド(SUB)のフレーム構成を示し、図4

(b)にはパスワードコマンド(PWD)のフレーム構成を示す。両コマンドは共に、CCITT T.30で勧告されているものである。本実施例では、図示のようにサブアドレスコマンド(SUB)のファクシミリ情報フィールド(FIF)には前記出力先の分類番号を設定し、パスワードコマンド(PWD)のファクシミリ情報フィールド(FIF)には暗証番号を設定することとした。以下、サブアドレスコマンド(SUB)はSUBコマンドと呼び、パスワードコマンド(PWD)はPWDコマンドと呼ぶ。

【0013】まず、上記構成のファクシミリ装置による送信側つまり出力先指定側としての動作を説明する。図5において、ステップS30では、SUBコマンドの情報すなわち送信文書の出力先分類番号の入力を促す案内を表示部に出力する。ステップS31では、入力の有無を判別する。入力があればステップS32に進み、操作部から入力されたSUBコマンドの情報すなわち送信文書の出力先分類番号を、SUBコマンドのファクシミリ情報フィールド(FIF)に設定する。ステップS33では、PWDコマンドの情報すなわち出力先に対応する暗証番号の入力を促す案内を表示する。ステップS34では、入力の有無を判別する。入力があればステップS35に進み、操作部から入力されたPWDコマンドの情報すなわち暗証番号をファクシミリ情報フィールド(FIF)に設定する。

【0014】ステップS36で通信開始指示が検出されたならば、通信指示とともに入力される宛先識別情報つまりダイヤル数字もしくは短縮番号等を記憶する。ステップS37では、SUBコマンドのファクシミリ情報にデータが設定されたか否か、つまり出力先分類番号が設定されたか否かを判断する。この判断が否定の場合は、ステップS38に進み、出力先指定通信以外の通常の通信を行う。

【0015】出力先分類番号がSUBコマンドに設定されたと判断された場合は、ステップS39に進み、前記宛先情報に従って発呼する。ステップS40では、受信機から送出されるデジタル識別信号(DIS)を解析し、能力宣言を確認する。ステップS41では、前記能力宣言に基づき、受信機がSUBコマンドの判断能力を有しているか否かを判断する。SUBコマンドの判断能力を備えていないと判断した場合は、ステップS42に進んで通信エラーで終了する。ここで、通信エラーの発

生を表示部に表示してもよい。

【0016】出力先分類番号がSUBコマンドに設定されたと判断された場合は、ステップS39に進み、前記宛先情報に従って発呼する。ステップS40では、受信機から送出されるデジタル識別信号(DIS)を解析し、能力宣言を確認する。ステップS41では、前記能力宣言に基づき、受信機がSUBコマンドの判断能力を有しているか否かを判断する。SUBコマンドの判断能力を備えていないと判断した場合は、ステップS42に進んで通信エラーで終了する。ここで、通信エラーの発生を表示部に表示してもよい。

【0017】受信機がSUBコマンドの判別能力を有していると判断された場合は、ステップS43に進み、PWDコマンドが入力されたか否かが判断される。PWDコマンドが入力されていれば、ステップS44に進み、受信機がPWDコマンドの判断能力を有しているか否かを判断する。受信機がPWDコマンドの判断能力を有している場合は、ステップS45に進み、前記出力先分類番号が設定されているSUBコマンドおよびPWDコマンドを送信する。PWDコマンドが入力されていない場合、もしくは受信機にPWDコマンド判断能力がない場合は、ステップS46に進んでSUBコマンドのみを送出する。なお、PWDコマンドが入力されていない場合、もしくは受信機にPWDコマンド判断能力がない場合、通信エラーで終了するようにしてもよい。

【0018】上述の各コマンドの設定手法では、入力された情報を各コマンドのファクシミリ情報フィールドに直接展開した例であるが、入力された出力先分類番号や暗証番号を一旦RAM2に記憶し、各コマンド送出の際にファクシミリ情報フィールドに展開するようにしてもよい。また、出力先指定通信指示のための入力キーを操作部に設け、このキーによる指示が入力された場合に、入力された出力先分類番号や暗証番号をSUBコマンドやPWDコマンド用の情報として取り込んで記憶するようにしてもよい。

【0019】次に、図7、図8および図9を参照して受信機としての動作を説明する。まず、図7のステップS50では、SUBコマンドを受信してRAM2に格納する。ステップS51では、前記SUBコマンドのファクシミリ情報フィールドから出力先分類番号を抽出する。ステップS52では、抽出した出力先分類番号によって前記分類テーブルから出力先を検出し、RAM2に記憶する。ステップS53では、画情報の受信を開始し、ステップS54では、検出された前記出力先に画情報を出力する。

【0020】なお、受信した画情報は一旦画像蓄積装置に蓄積し、その後に所定の出力先に出力してもよいし、少なくともバッファを介するだけで、出力先に直接出力してもよい。以下に示す受信動作の例でも同様である。

【0021】出力先に暗証番号が設定されている場合の

受信動作は次のようになる。図7において、ステップS60ではSUBコマンドを受信してRAM2に格納する。ステップS61では、前記SUBコマンドのファクシミリ情報フィールドから出力先分類番号を抽出する。ステップS62では、抽出した出力先分類番号によって前記分類テーブルから出力先を検出し、RAM2に記憶する。ステップS63では、検出された出力先分類番号に対応して暗証番号が設定されているか否かを判別する。暗証番号が設定されていたならばステップS64に進んで通信エラーで終了する。暗証番号が設定されていなければステップS65に進み、画情報の受信を開始し、ステップS66では、検出された前記出力先に画情報を出力する。なお、自局に暗証番号を設定しない場合は、前記ステップS63の判断を行う必要はない。

【0022】次に、SUBコマンドとPWDコマンドを受信した場合の受信機の動作を説明する。図9において、ステップS70では、SUBコマンドおよびPWDコマンドを受信してRAM2に格納する。ステップS71では、前記SUBコマンドのファクシミリ情報フィールドから出力先分類番号を抽出する。ステップS72では、PWDコマンドのファクシミリ情報フィールドから暗証番号を抽出する。ステップS73では、抽出した出力先分類番号によって前記分類テーブルから出力先を検出し、RAM2に記憶する。ステップS74では、検出された出力先に暗証番号が設定されているか否かを判断する。暗証番号が設定されれば、ステップS75に進み、出力先に設定されている暗証番号とPWDコマンドから抽出した暗証番号とが一致しているか否かを判断する。2つの暗証番号が互いに一致していない場合は、ステップS78に進んで通信エラーで終了する。この際に表示部に通信エラーを表示してもよい。暗証番号が一致したならばステップS76に進んで画情報を受信し、さらにステップS77では、その受信画情報を、指定された出力先に出力する。また、ステップS74において、出力先に暗証番号が設定されていないと判断された場合は、ステップS75はスキップしてステップS76に進む。このように、SUBコマンドから抽出された出力先分類番号に対応する出力先に暗証番号が設定されていない場合は、受信したPWDコマンドに暗証番号が指定されても、この暗証番号の指定は無視される。なお、最初から出力先に暗証番号を設定しないような場合は、前記ステップS74の判断を行う必要はない。

【0023】上記の出力先指定通信のネゴシエーション例を図10に示す。同図に示すように、SUBコマンドおよびPWDコマンドはデジタル命令DCSとともに、デジタル識別信号DISに応答して発呼側(送信側)から着呼側(受信側)に送出される。

【0024】次に、図1のブロック図を参照して本実施例のファクシミリ装置の要部機能を説明する。まず、送信機としての機能を説明する。出力先指示入力部13で

は、出力先指示情報すなわち出力先分類番号および暗証番号が入力される。入力されたこれらの出力先指示情報は出力先指示記憶部14に記憶される。SUB作成部15は入力されたデータを所定のフレームに展開してSUBコマンドを作成する。同様にPWD作成部16では、入力されたデータを所定のフレームに展開してPWDコマンドを作成する。

【0025】通信制御部9は通信開始指示部17から通信開始指示とともに宛先識別情報つまりダイヤル数字が供給されると、発呼動作を行う。そして、受信したプロトコルコマンドをコマンド検出部18に出力する。コマンド検出部18はプロトコルコマンドからDISフレームを検出すると、そのデータをDIS解析部19に供給する。DIS解析部19はDISフレームの能力情報を基づいて受信機のSUBコマンドおよびPWDコマンドの判断能力有無を判断し、能力があると判断した場合は、出力先指示記憶部14に読出信号を出力する。

【0026】出力先指示記憶部14は前記読出信号に応答し、SUB作成部15およびPWD作成部16に出力先分類番号および暗証番号をそれぞれ出力する。これら出力先分類番号および暗証番号をそれぞれ含むSUBコマンドおよびPWDコマンドは通信制御部9を介して受信機に送信される。

【0027】なお、点線で示すように、出力先指示入力部13からSUB作成部15およびPWD作成部16に出力先分類番号および暗証番号を直接入力してSUBコマンドおよびPWDコマンドを作成しておき、前記読出信号をこれらSUB作成部15およびPWD作成部16に供給するようにしてもよい。

【0028】次に、受信機としての機能を説明する。SUB検出部20およびPWD検出部21は、通信制御部9Aで受信した受信情報からSUBコマンドおよびPWDコマンドをそれぞれ検出し、判別部22に供給する。分類テーブル記憶部23には、図3で説明した出力先分類テーブルが記憶されている。

【0029】判別部22では、前記SUBコマンドおよびPWDコマンドから抽出した出力先分類番号および暗証番号に従って出力先分類テーブルを検索し、指定された分類番号が付された出力先の有無と暗証番号の一一致とを検出する。出力先選択部24は通信制御部9Aを介して受信した画情報の出力先を選択する切り替え手段である。

【0030】前記判別部22から出力される出力先検出信号は通信制御部9Aに供給され、画情報受信が開始される。受信された画情報は、判別部22から供給される出力先選択情報つまり分類番号に従って切り替えられる出力先選択部24を介して、所定の出力先つまりAトレイ25、Bトレイ26、封緘装置27、親展ボックス28のいずれかに出力される。

【0031】以上のように、本実施例では、送信機側で

は、標準のコマンドつまり SUB コマンドおよびPWD コマンドによって出力先の指示をすることができるし、受信機側では前記 SUB コマンドおよびPWD コマンドを判断して決定された出力先に受信文書を出力することができる。

【0032】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本發明によれば、送信に際して SUB コマンドおよびPWD コマンドで出力先分類番号および暗証番号を送信することができる。また、受信に際しては受信した SUB コマンドおよびPWD コマンドから出力先分類番号および暗証番号が抽出され、この出力先分類番号に従って出力先を選択し、その出力先に受信画情報を出力する。さらに、出力先に暗証番号が付与されていた場合には、この暗証番号と前記抽出した暗証番号とが一致した場合にこの出力先に受信文書が出力される。その結果、自社機および他社機の区別なく、指定した出力先に文書を出力させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本發明に係るファクシミリ装置の要部機能を示すブロック図である。

【図2】 ファクシミリ装置のハード構成を示すブロック図である。

* 【図3】 分類テーブルの一例を示す図である。

【図4】 SUB コマンドおよびPWD コマンドのフレーム構成図である。

【図5】 本發明の一実施例を示す送信動作のフローチャートである。

【図6】 本發明の受信動作の第1の例（その1）を示すフローチャートである。

【図7】 本發明の受信動作の第1の例（その2）を示すフローチャートである。

10 【図8】 本發明の受信動作の第2の例を示すフローチャートである。

【図9】 本發明の受信動作の第3の例を示すフローチャートである。

【図10】 本發明に係るネゴシエーション例を示すシーケンス図である。

【符号の説明】

13…出力先指示入力部、 14…出力先指示記憶部、

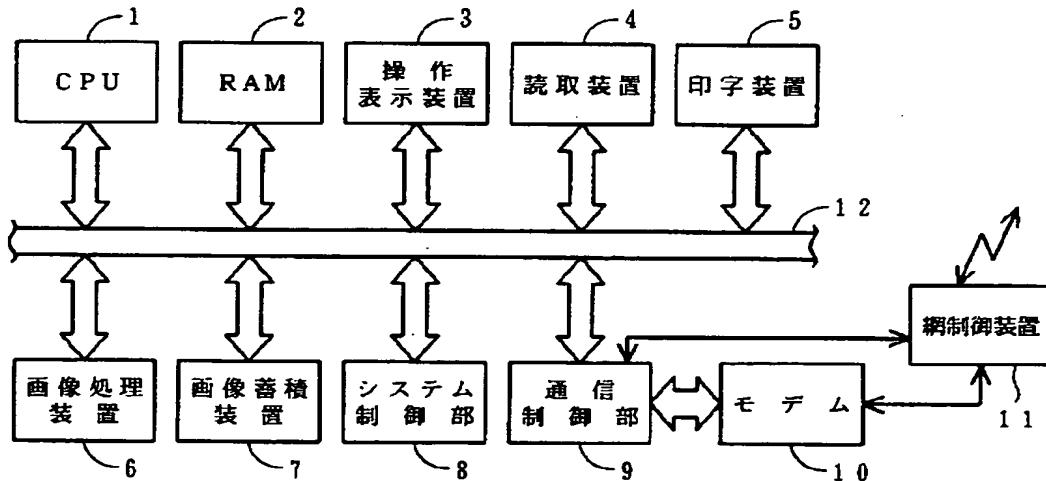
15…SUB 作成部、 16…PWD 作成部、 17…

通信開始指示部、 18…コマンド検出部、 19…DI

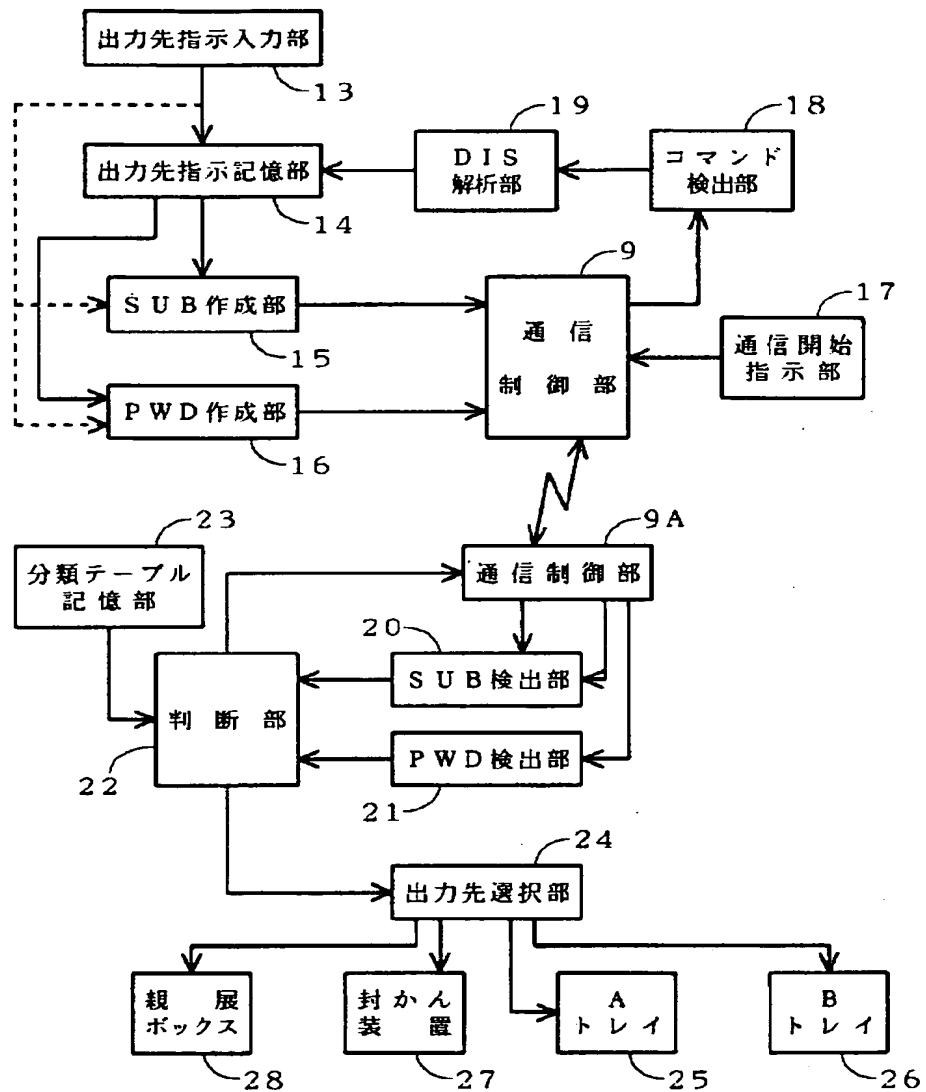
20 S 解析部、 20…SUB 検出部、 21…PWD 検出部、 23…分類テーブル記憶部、 24…出力先選択部

*

【図2】



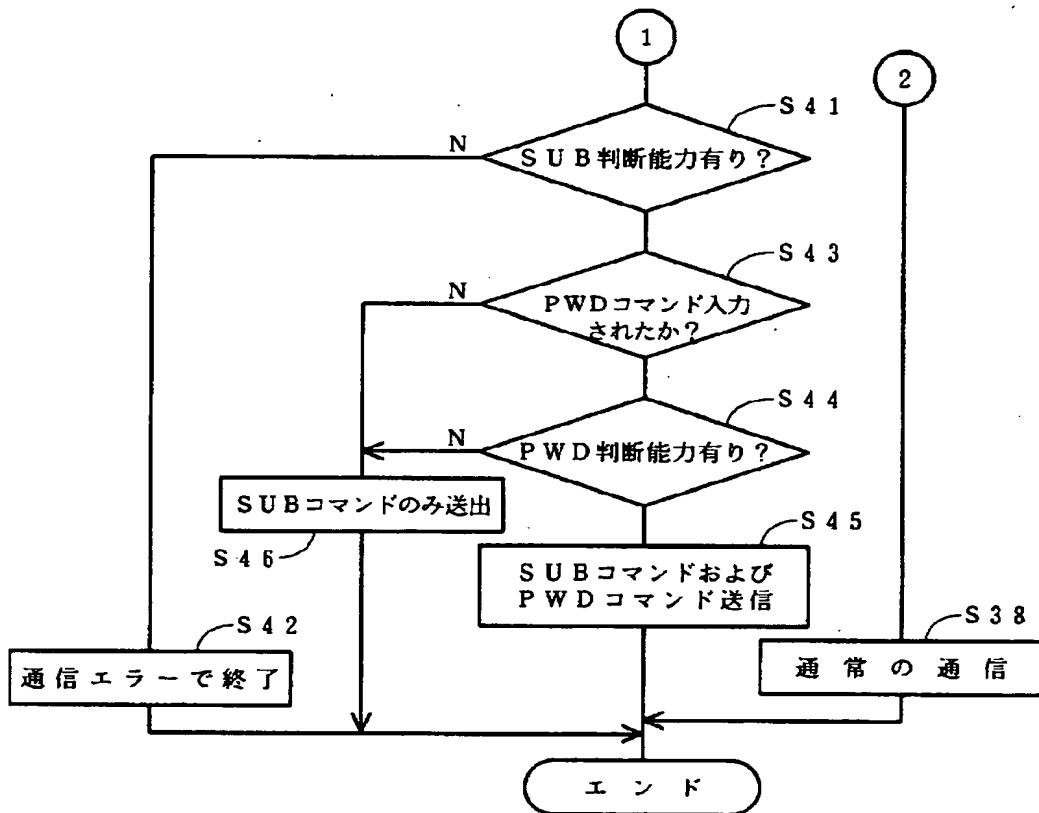
【図1】



【図3】

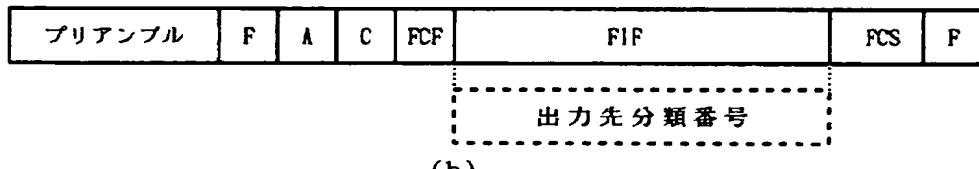
出力先	分類番号	暗証番号
トレイ A	01	—
トレイ B	02	—
封機装置	03	10
親展ボックス	04	04

【図6】

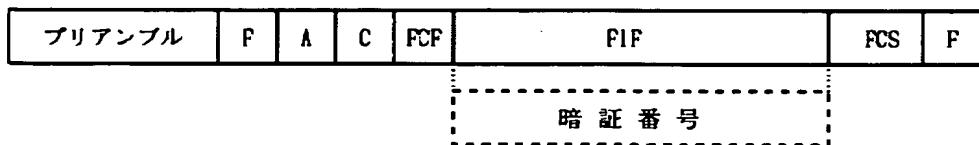


【図4】

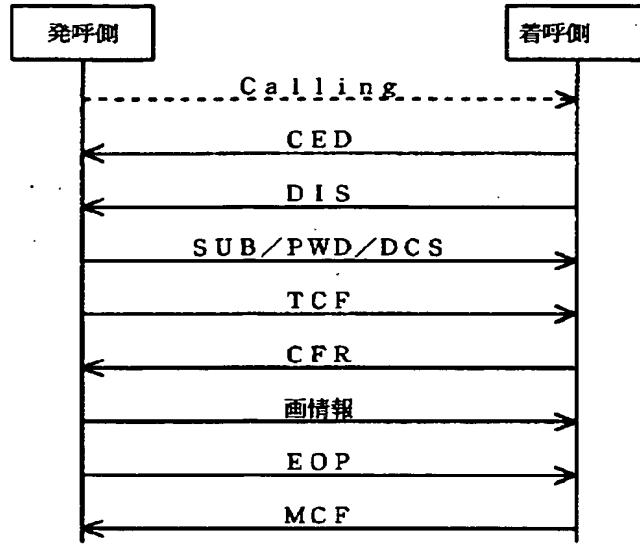
(a)



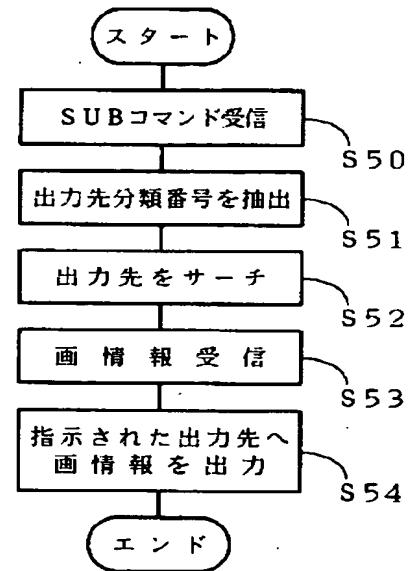
(b)



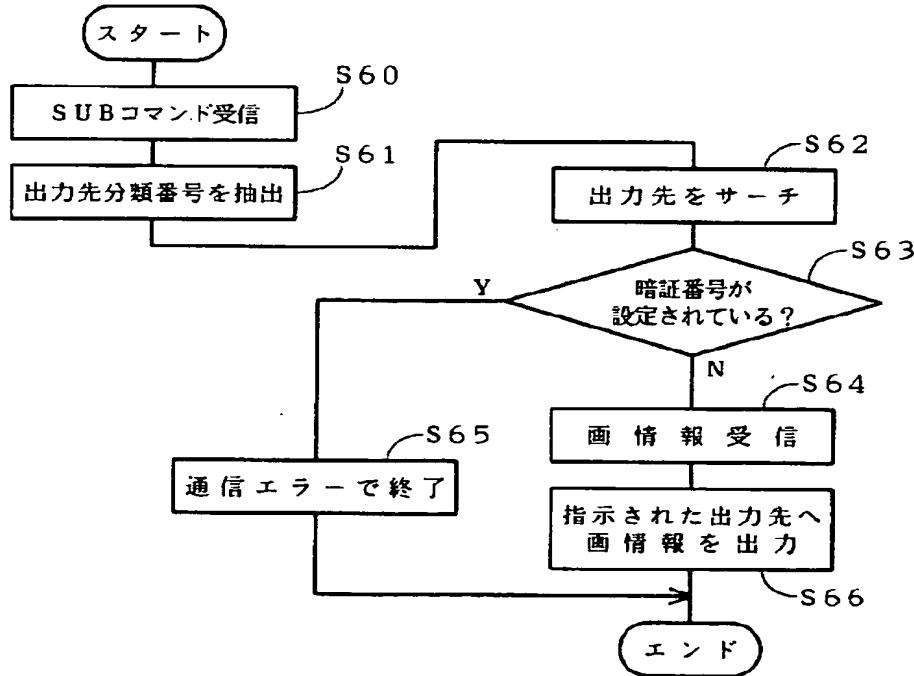
【図10】



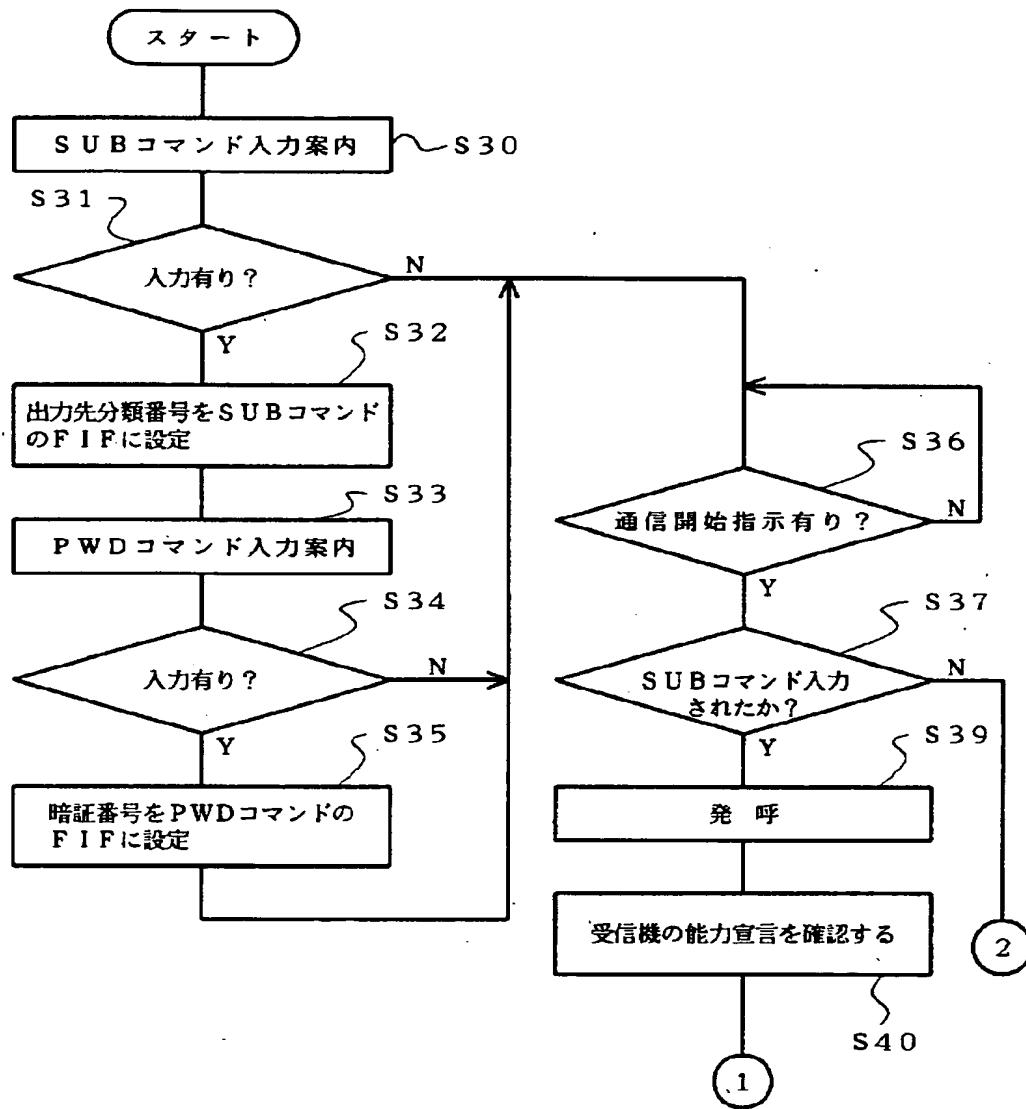
【図7】



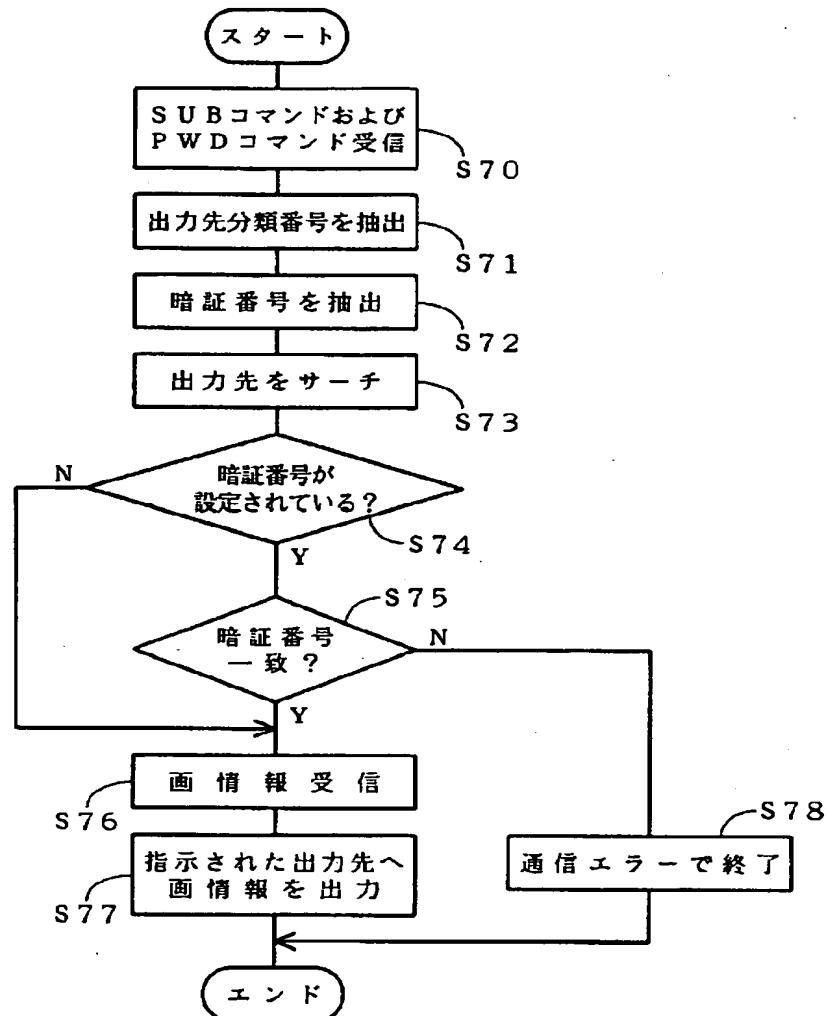
【図8】



【図5】



【図9】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 平4-360371 (J P, A)

(58)調査した分野(Int.Cl. ⁷, DB名)

H04N 1/32 - 1/34

H04N 1/44